

被害を与へた台風 13 号が、まだ、ヤップ島の北方約 300 キロ附近にあったときの方形飛行による台風中心附近の観測実況を示したものである。(この図の実況は実際の天気図に記入されてあるもののスケールを拡大して転載したものである)。中心の位置はこのときの飛行機観測によって決定されたものである。飛行機観測の通報式の説明は多くの紙数を要するので省略するが第 4 図に記入されている要素について簡単に説明する。正方形内のマークは飛行状態(雲上飛行、雲下飛行、計器飛行等)を示し、左下の記号は現在天気、左側の数字は上段が気温、下段が露点温度、右側の数字は上段から、地上気圧(又は等圧面高度)、飛行高度(100 ft 単位)、観測時刻(グリニッチ時刻)を示している。図中 p_s とあるのは地上気圧(mb 単位)、 h_7 とあるのは 700 mb の等圧面高度(10 ft 単位)を表している。矢羽は飛行高度における風向、風速を示す。この図は台風の中心が、 13°N 、 137°E 附近にあって西北西から北西にその向きを変えて進行し始めた 9 月 20 日 12 時前後の中心附近の実況を示したものであるが、この観測飛行終了後、作成された Post Flight Summary (§3 参照)の内容を参考までに次に述べる。

「アンダーソン基地(グアム島にある米空軍の基地)を 8 時 35 分出発、中心位置の決定に向った。アンダーソンの西方 120 哩にてそびえ立つ帯状積雲の域に遭遇、その後 137.5°E までは所々、積雲の切れ目あり、 137.5°E にて、レーダーのエコーは北西方向に雄大な積雲が円形の帯状をして存在していることを示した。又この円形の北西方向のみが開いていることを示していた。この帯状積雲を貫通後、眼の中心近くに入った。11 時 37 分観測における中心位置は、 $12^{\circ}51'\text{N}$ 、 $137^{\circ}05'\text{E}$ で 700 mb 面の高度は、9740 ft、中心気圧は 986 mb であった。眼の位置より離れ、進路を北方にとった後、下層方形飛行を行うため、高度を 1500 ft に下げた。全象限にわたり、約 100 哩の範囲は 50 ノットの風速域を形成していた。16 時 00 分、第 2 回目の中心位置測定を行った。中心位置 $13^{\circ}17'\text{N}$ 、 $136^{\circ}52'\text{E}$ 、中心気圧 983 mb、眼の直径 10 哩、眼は円形をなし、その周囲は巨大な塔状積雲でかこまれ、その内側の気圧傾度は比較的ゆるやかであった。2 回目の中心位置測定時には、小雨と層積雲で眼の域はおおわれていた。グアムに至る帰航途上では無数の塔状積雲に遭遇し、グアムの西方 400 哩で激しい降雨域内に突入した。16 時 40 分グアムに帰着」

7. 台風予報作業への飛行機観測資料の利用

上述の飛行機による台風観測資料は TBPA, WRPA, FBPA 等の内容識別記号がつけられてテレタイプで米軍気象隊から直ちに中央気象台にも送られてくる。その中、観測実況は赤道天気図(台風時のみ特別に作成される)や、高層天気図に記入され、解析上、貴重な資

料となり、台風中心の位置、その他の観測にもとづく資料や情報は台風予報担当官の許で直ちに整理、検討され、今後の予想に対する最も重要な手がかりとなるのである。上層観測点や地上観測点の少い洋上においては、気象偵察機による観測結果が台風進路予想の根幹をなすといっても過言でない。又台風の構造、発達状況等についても貴重な資料を提供している。

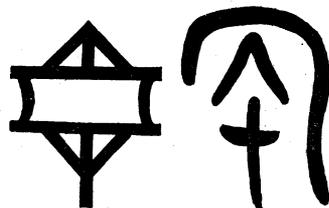
8. むすび

天気の No. 3 に水爆実験により米国が犯した罪について書かれていたが、膨大な経費と資材を要する飛行機観測については、米国の観測網にたよっているのが現状である。一方においては大きな被害をうけ、他方では大きな恩恵を蒙っている。何時の日になったら、日本独自の飛行機観測を実現できるのであろうか?

(中央気象台予報課)

風 という字は なぜ虫をかくか?

漢字にかぎらず英語の綴りなどもしばしば眺めているうちにどうも正しくないような気がしてくるものようです。風(カゼ)という字もみればみるほど奇妙な字ではありませんか、まず真中に虫という字のあるのはふにおちない、ところが漢字のおこりをかいた中国の古書「説文」には次のように説明しております。「風向を 8 方位に分けて、東の方から吹いてくるのが明庶風、東南からは清明風、南方からは景風、西南は涼風、西方は闐闐、西北は不周風、北方は広莫風、東北は融風といえます。気候が変わるにつれて、いろいろ風も変わります。それらの風に応じて種々の蟲類が孵化するので、虫をかいてカゼを表わすのであって、風は単に発音を示すだけのものです」いかにも理路整然、中国古代にかかるフェノロジー(季節学)のあったとは、さすが聖人の国であるなど感心するのは早すぎます。これにはいろいろ異論がございます。



エジプト文字

中国古代文字

第一は真中には虫ではなくて雲(クモ)だという説であります。風がおれば雲が動く、風と雲とは正に一心同体ともいえます。ところが雲のふるい字と虫のふるい字とは大変よく似ているから、いつのまにか転化してしまったのだらうというのであります。いかにももっともらしいではありませんか。

第二はもっと奇抜です。埃及の象形文字では船の帆の形をかいて風をあらわしたものです。これと風の古代文字と大変似ている。さてエジプトから傳わたにちがいないというのです。もちろん風一つだけでなく、他にもいろいろ証拠とおぼしきものがありますから無下にすてるわけにもいきません。

(T.W.)